

広島ミニもみじまんじゅうラウンド In 福山

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

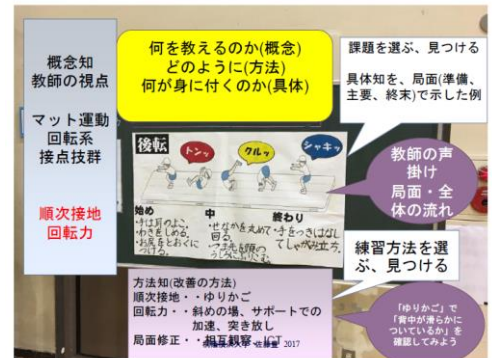
H29.12.10(日) 福山市立東小学校

年末の大変多忙なスケジュールの中、広島において、「ミニもみじまんじゅうラウンド」を開催いたしました。地元福山市の小中学校の先生方、そして福岡県から駆けつけてくださった藤田先生と、総勢41名の熱い仲間の参加により、大変、盛り上がりました。新学習指導要領を踏まえた授業づくりがどうあるべきか、参加者みなさんで一体となって、熱く学び合うことができました。

1 話題提供：「新学習指導要領の改訂と実施に向けて

～体育科・保健体育科における主体的で対話的で深い学びとは～

佐藤先生より、新学習指導要領改訂の経緯、そして趣旨や内容等を含め、これからの体育・保健体育の授業づくりについて、大切な点についてお話をいただきました。子供たちの学びを深い学びへと導いていくためには、「わかるとできる」をつなぐための「概念知」「方法知」「具体知」といった知識の構造を整理しておくことが有効であるとお話をいただきました。中でも「何のために」といった概念知の理解が進むことで、指導内容はもちろんのこと、指導者の言葉かけや手立ても明確になり、「わかった」「できた」実感もてる授業づくりへとつながっていくことが分かりました。



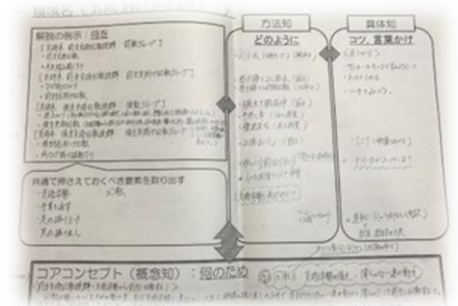
2 ワークショップ：『知識の構造』の視点に基づく学習指導について

9グループに分かれて、それぞれのグループで領域と対象学年を決め、新学習指導要領により、「概念知」「方法知」「具体知」の整理を行いました。

この整理を行うことで、「概念—方法—具体が繋がったか?」、「授業のイメージが広がったか?」の2つの視点が明らかになることを目標に作業を進めていきました。

まず、解説の例示をしっかりと読み込み、「何を教えるのか」を明確にしました。続いて、解説の内容から、共通で押さえておくべき要素（キーワード）を取り出し、そこから「概念知」を見つけ出すという段階で作業を行いました。中学校の学習指導要領解説も参考にしながら、「概念知」の特定を行ったのですが、どのグループもとても苦労しながら、作業を行っていました。佐藤先生の助言もいただきながら、みんなで知恵を出し合い、何とか作業を進め、後半は、全体で交流を行い、情報共有しました。

この作業を振り返り、「何を教えるのかが明確になった。」「『何のため』という概念知が明らかになることで、場や教材は何が必要か、具体的な声かけはどうあるべきか、授業づくりの幹の部分がわかってきたように思います。」などの意見が出ていました。



終わりに

この度は、東小学校の伊田校長先生の呼びかけに、佐藤先生が応えてくださり、実現できた会です。子供たちのために、日々の授業を充実させていくこと、そのためには自ら学び続ける存在でなければならないと、伊田校長は熱く語られていました。自ら進んで学び続ける姿勢をもち、体育科授業充実のために頑張っていこうと改めて感じました。この会の開催に向けご尽力いただきました先生方、参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

